

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902611		
法人名	医療法人社団 圭泉会		
事業所名	グループホームやすらぎⅡ(ユニットやすらぎⅡ)		
所在地	旭川市東旭川町下兵村254番地の3		
自己評価作成日	令和4年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902611-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日朝の申し送り時に、理念を復唱している。又、利用者本意のケアを行える様3か月ごとにユニット別で個々に小目標を掲げて援助につなげています。
・各担当者が家族に向けたお手紙を毎月記載し、よりよい関係性を築けられるように努めています。
・町内会行事の清掃や資源回収に参加し地域の方と交流を図っています。
・利用者が必要な医療を受けられる様に、心身の状態を観察し、24時間体制で必要時に看護師に連絡・相談・報告・指示を受けられるように医療連携でき、安心した生活が送られるように対応しています。
・法人との感染対策を参考にして、施設内で感染委員会中心に感染対策を実施しています。
・法人で開催している高齢者マネジメント会議に参加し、各セクションとの情報共有を行い、入所状況など把握に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年12月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果(やすらぎ側)

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、施設の理念を唱和して意識づけをしている。理念に基づいたユニット毎の目標を作成して実施し、三ヶ月毎に評価を行い、今後の取り組みに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、少人数で町内会の廃品回収とゴミ掃除に参加した。選挙は人ごみを避けて希望ある入居者さんと期日前投票に参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は書面で施設の取り組み内容をお知らせし、返信封筒を入れご意見を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は書面で施設の取り組み内容をお知らせし、ご意見を頂いている。参加出来る入居者さんには出席して頂き、議題以外にも施設に対する要望や意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方は保護課の方と随時、連絡・面談を行っている。指導監査課へインシデント・アクシデントの報告行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関・テラス施錠はせず開放している。身体拘束委員会では定期的に勉強会を開催して、自らの介護方法を振り返ったり、体験する機会を設けている。委員会もあり月一度集まり、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	疑わしい事があれば上司へ報告している。身体拘束委員会では定期的に勉強会を開催し虐待についてのレポートを提出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がいる。現在コロナ禍の為、現在は講師を招く機会はない状況である。分からないこと等があれば法人へ相談する仕組みがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には予め説明し理解を得ている。改定時には、事前に口頭で説明して同意を頂き同意を得てから書面を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	廊下に意見箱を設置している。家族からは支払いや電話で要望を聞いている。数年に一度満足度調査を行っている。廊下の意見箱は安全に活用でき、プライバシーが配慮できる場所に設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティングを通し意見を伝えられる機会を設けている。年に1回は職員が希望する必要物品の検討を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望はスタッフで話し合っており決めていく。時間外での仕事が増えない様、業務時間の振り分けを意識している。ジアイーノを設置し感染防止の環境が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人にはマニュアルを元に、スタッフ全員で関わり指導しているまた、振り返りをしている事や、分からない事を確認しながら進んでいくことを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、研修参加は少ないが数名参加していた。委員会で交流しているが、コロナ禍で、書面開催が増えて来ている。管理者研修に参加し情報の共有、ネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前に相談員や多職種と情報共有し、談話時には、複数のスタッフで参加し、顔を覚えてもらう様関わっている。また、契約前には施設見学をしてもらい、安心して入居できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前には、何かあれば家族に説明し、納得して頂けるようにしている。それをスタッフ全員が理解できる様に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、通所されているDC等から事前に情報収集した中でサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみや掃除を手伝って頂いた時は労いの言葉をかけ、小レクにて一緒に食事を作ったり、畑の収穫と一緒にし交流を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当から家族へ手紙の郵送、支払い時に近状報告、ガラス越しでの面会、何か欲しい物はないか本人へ確認して間を取りもっている。会えない方でも現金書留が届いたら電話し直接会話したり、写真を送って元気な姿を観て頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人への電話の取次ぎや、昔住んでいた家(地域)を目的地とし、ドライブをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の座席の検討、ホールソファへは自由に座って頂き、気の合った方どうしで会話して頂けている。利用者さんの許可を得て自室に入り談笑する事もあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係性を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の入院であれば、高齢者マネージメント会議等で現状確認を行い情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら声をかけるよう意識し会話を増やした。各個別プランの把握や本人の思いを記録し統一した対応をしている。又、ユニットミーティングで話し合える場を設けている。本人の思いは全体で共有したい所なので赤枠で囲み目立つようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中からの情報や情報シートや直接家族に聞くなどして、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	能力に合った手伝いへの声掛けご本人のルーティンを崩さない様見守り体調に合わせ臥床時間を設けている。日課以外は、各個人のペースで過ごして頂いている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・ユニットミーティング・アセスメントにて意見交換出来る機会がある。他職種OTからの意見も頂きプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントをあげ評価日を設ける事で実践結果を残し全員で追っかけの記録をする事で情報共有できモニタリングで話し合うことが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ガラス越しでの面会・希望時の電話の取次ぎ、コロナで孫さんの行事に参加出来ずDVDにて行事鑑賞に対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一緒に作物を育て、収穫し希望の調理法で提供し喜んで頂いている。一緒に散歩に行き自動販売機で飲み物を購入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は、そこにかかっている。変更する場合は、本人と家族の了承を得ている。法人の病院受診時には専用の用紙を使用し情報をお伝えしている。何かあれば直接連絡が頂ける。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に24時間いつでも相談出来る体制があり、必要時は、受診対応や処置を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、相談員の方に情報確認したり入退院時は、病院の方と情報共有している。事前の情報提供の準備をしている。高齢者マネジメント会議による情報共有も月一回行われている。(現在は書面開催)。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・急変時・終末期についての同意書に同意を頂いている。状態が変わってきたら家族と方向性について話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などのマニュアルがあり、勉強会も実施している。また、急変時などに焦らないように手順や内容をフローチャートにした用紙を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練や水害の勉強会を実施。災害時に備え、避難時の衣類一式を準備している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格に合わせた声掛けや言葉遣いを意識し、不快な思いを抱かせないように関わっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな服が着たいか、どんな物が食べたいかなど本人の希望を確認している。思いを表出しやすいように、1対1で話す、自室で会話するなど意識して関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は本人のペースを優先し行ってもらっている。入浴順番や畑、花の水やりの方法など出来る限り、本人の希望に添えるよう検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら服を選ぶ方には選んで頂き、難しい方は場合は季節や気温などを考慮し同じ服に偏らないように配慮している。家族からの贈り物を着用した際には、共に喜び似合っていることを伝える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態(刻み、ミキサー)や食器の検討、提供をしている。食事レクでは一緒に食事の準備(食材のカットなど)や味をみて頂いたりしている。提供する温度にも気を配っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示で、食事の量やおやつの量など調整している。嚥下状態、食事の状態に合わせて、トロミを付けたり、刻んで提供している。必要に応じて、カロリーオフの飲み物やおやつを提供したり、食事を補うためにエンシュアを利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジブラシやガーグルベースを使用している。義歯を使用している方は、義歯洗浄剤を使っている。歯科の定期検診がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを利用して、排泄パターンを知り、時間や回数を決めてトイレ誘導やパット交換を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供。体操や運動をしていただく。下剤の調整をし、便秘が長くなると、腹部観察やマッサージを行い、状況によっては看護師が用指を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望された時間に入っていただく。入れない時は前もって説明し納得して頂けるよう努力している。入浴に向けて、楽しんで頂けるような声掛けを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠薬の使用。日中でも眠気がある時は、臥床を促したり、居室へ誘導し、休んでいただく。夜休めるように、日中は出来るだけ離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも情報が読めるようにしている。処方変更した時は、どういう薬かを理解したうえで、服用後の体調変化がないか様子観察している。薬の変更は介護記録に記載し、全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵やスクラッチアート、歌番組の録画をしたり、嗜好品を聞きコーヒーやバナナなどを提供している。畑作業をしたり、洗濯物を畳んでいただくなど、個々に応じて作業を依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援し	コロナもあり制限もあるが時間を見つけ、散歩や外気浴、希望の場所へ感染対策しながらドライブに行っている。場所は本人の行きたい場所(昔住まわれていた等)を考慮している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理していないが、自動販売機やレジでの精算の際お金を渡してお支払いして頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時取り次ぎ、家族からの手紙は本人へお渡ししている。又、会話の中で家族が誕生日だと話された時に電話を勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスに花を置いている。ホールには季節感のある貼り絵やスクラッチアート、編み物を作成し掲示している。エアコンにて室温の調節を行う。今後季節に合った物など等を取り入れていきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席の配置。ホールのソファは自由に座った頂けるようにしている。廊下のソファでは外を眺めたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を沢山飾れるようセッティングしたり、作品を飾ったり、TVを設置している。物干し竿を置いたり、電気の紐を長くしたり本人が使用しやすいよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場、各部屋の場所が分かりやすいように表札を設置している。食席に杖置きを設置している。		